

CHIGASAKI 市立病院だより

第56号

平成14年1月発行

発行／茅ヶ崎市立病院

茅ヶ崎市本村 5-15-1 TEL52-1111

2002年を迎えて



病院長 宮下正俊

1. はじめに

新年明けましておめでとうございます。

昨年は21世紀の幕開けの年でありましたが、まるで前世紀末に積み残した分を繰り越したかのように様々な暗い出来事が起こりました。とりわけ9月11日に起きた世界貿易センタービルに対するテロ事件は我々日本人の生活への直接影響のみならず価値観まで問題を投げかけています。

昨今、医療事故防止について考えるとき、安全を守ることが医療の質を保つための基本的要件であることが強調されています。安全を守るためのシステムを日常の診療業務の中にきちんと組み込むことが必要であること、それには時間と人手が必要であり、したがって資金面も考えなければならないといわれています。ちょうどそのとき生じたこの事件は、現代社会を守る安全装置がいかに頼りないかを実感させ、このテロから現代社会を守るには途方もない叡智と費用と努力が必要だろうと考えさせられました。狂牛病の予防においても、あらかじめ対策をとっておけば酪農家や肉屋さんなどへの社会的被害は最小限であったろうと、後になっては皆が指摘しています。以って他山の石とすべしと考えます。

2. 入院状況

さて茅ヶ崎市立病院にとっては、昨年は新病院になって二年目でした。ご存じのように

平成12年10月に市民、長年の念願であった新病院の第Ⅰ期開院が実現されました。ベッド数は旧病院で291床でしたが、239床と一時的に52床少なくなっています。現在工事している建物が完成しますと401床の病床が確保されますが、それまでは入院を必要とされる皆様方に大変御迷惑をおかけ致します。4月～9月の上半期で比較しますと、旧病院の平成12年度では一人平均の入院期間が14.5日であったものが、新病院での平成13年度では13.2日と短縮されています。因みに近隣の市立病院の例を見ますと17日から20日くらいです。入院期間のはじめに主な検査や、治療・手術などが集中しますので、平均在院日数が少ないということは患者さんも職員も非常に忙しくなります。またベッドの埋まり具合（平均病床利用率）も上半期で91.4%から99.4%にあがっています。急性期の病気をできるだけ早く、できるだけたくさん治療したいと職員も一所懸命勤めております。ベッドの余裕がなくやむを得ず他病院を紹介せざるをえないこともたびたびあり、御迷惑をおかけいたしておりますがよろしくご理解、ご協力をお願いいたします。なお新しい病院で赤ちゃんを産みたいと希望される方が多く、お産の件数が増えているのも特記しておきたいことです。

3. 外来状況

外来では受診者数が増えています。上半期で延14万6000人／年で昨年と同時期に比べて1万人／年ほど増加しています。これは医師数などから考えて当院にとって限界に近い数字です。後に述べますように開業の先生方などとの医療機能の分担を推し進める必要があります。患者さんのご協力も頂き、かかりつけ医へ紹介させていただいた方の数も少しずつ増えていますが、その数以上に新患が増えています。

新病院になって医師がコンピューター画面から指示を入力するシステム（オーダリングシステムと略称されています）が導入され、同時に診療予約も全科的に行われるようになりました。この一年余りで患者さんも職員もシステムに慣れてきましたので開院当初にみられたトラブルはほとんどなくなってきました。特に診察が済んでからの時間、会計や薬の待ち時間が非常に短縮されたと好評です。しかし診察までの待ち時間は予約制の全面的導入にもかかわらずなかなか短縮できないのが現状です。昨年の6月に行った調査では、予約のある方は診察までの待ち時間が平均26分でした。一方予約なし再診の方は平均60分、初診の方は平均69分と1時間あまりの待ち時間となっていました。予約有り無しで2倍以上の待ち時間に差が出るのが明らかになりました。診察までの待ち時間は長い方では3時間を超えることもあり、今後いかに短縮できるかが大きな課題になっています。

今後も病診連携を推進し、たとえば安定した血圧コントロールやコレステロールのチェックなどの生活習慣病の管理や毎年の基本検診などはかかりつけ医で受けていただき、新たに病気が発生したときなどや急性期増悪・状態の変化時の検査や治療には当病院を利用するという形で、おたがいによりよりのある診療ができるようになったらよいと考え、体制作りに努力しております。

4. 第Ⅱ期開院への準備

平成15年4月には全館が完成するわけですが、特に内科系の充実が大きなテーマです。

現在ある消化器科、循環器科に加え呼吸器内科、神経内科を新設します。また一般内科は解消し、それに替わるものとして外来に総合内科を置きます。内科を始めて受ける方はまずここを受診していただき、その上で診察した医師が専門の内科に振り分けるようにするという計画を進めています。

また急性腎不全に対する治療を主体とした人工透析室の新設も大きなテーマの一つです。今まで腎不全があると3次救急病院へお願いせざるをえませんでした。そのような病態にも対応できるようになります。術後に急性腎不全が合併したケースなどにも大変な朗報です。

一つの病棟を医療法で新設された回復期リハビリテーション病棟に当てリハビリテーションにも力を注ぐ予定です。

また病気の予防や早期発見の必要性が強調されていますが、第Ⅱ期部分には健康管理センター（人間ドック）が予定されています。この一区画だけでドックが完了するように計画しています。午前中に検査を済ませ、その結果を午後には受診者が説明を受けてお帰りにいただけるような体勢を考えています。

この他にも特に救急診療体制の整備、小児医療体制の確保なども重点項目です。

5. おわりに

現在医療制度を改革しなければならないのは明らかです。現在の誰でも一定な医療を受けることができるという長所を押さえた上で、より良質な医療かつ効率的な医療を提供するために医療人としてはやるべきことが山積しています。新病院をうちたてるという作業の中で具体的な答えを出せるよう努力しています。市民の方々のご理解とご支持をよろしくお願いいたします。

最後に一言追加しますと、社会の高齢化に伴い、国民皆保険制度が危機に当面しています。老人医療費の「抑制」ばかりが強調されていますが、老人医療の需要が増えているのだということを踏まえて議論する必要もあるのではないのでしょうか。

茅ヶ崎市立病院の基本理念

- 私たちは、市民の健康を守るため、いつでも・だれにでも、良質な医療を提供します。
- 私たちは、患者さんや地域の医療機関とともに、効果的かつ効率的な医療を共創し社会の利益に貢献します。



Copyright © 2000 - 2003 Chigasaki Municipal Hospital. All Rights Reserved.